第 165 回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成 30 年 3 月 13 日提出）

１．題　目：発信型の英語運用能力の増進に向けて

２．日　時：1 回目：平成 30 年 2 月 27 日（火）13：00～16：15
　　2 回目：平成 30 年 3 月 2 日（金）13：00～16：15

３．場　所：教養教育棟 A-12

４．主　催：英語小委員会、言語教育研究センター

５．対　象：教養教育英語担当教員

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　○　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　○　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
2020 年度（2021 年 1 月実施）からの大学入試の英語試験においては、民間の資格・検定試験を活用して 4 技能（読む・聞く・話す・聞く）を評価することとなる。経済活動全体のグローバル化が進んだため、特定の業種に限らず英語でのコミュニケーション能力の必要性がますます高まっていることがこの入試改革の理由と考えられる。英語 4 技能の習得の必要性が高まる中で、大学における英語教育においても特に「話す・書く」という発信型の英語運用能力を高めるためにより有効な教育方法を確立することが必要となる。2 回開催する予定の今回の FD においては、特にこの 2 技能を高めるための教授法を紹介する。
さらに 2 回の FD のどちらにおいても、これまでの TOEIC-IP の数年間のデータを学部ごとに分析しその問題点を共有することで、今後の教養教育科目全体に関する課題や改善点を検討したい。また、3-STEP の必修化による学生の取り組みの様子や問題点をアンケート調査から分析し、今後の方向性を協議したい。

<1 回目>

長崎大学では、平成 27 度 9 月から、長崎大学独自のグローバル事業として位置付ける学部横断型特別プログラム「長崎グローバル＋コース」を開始し、「Special Course in Academic Skills (SCAS)」を学生へ提供している。SCAS においては、選抜された学生を対象に、過去のデータ等から、比較的英語力が高い学生においても欠けていたと考えられる運用能力 speaking や writing を中心に訓練を行っている。

SCAS の講師陣は、Northern Arizona University で TESOL(Teaching English to Speakers of Other Languages)の専門的訓練を受け、日本、トルコ、マカオ、コロンビア、バーレーン等、世界各地の英語特別プログラムで教鞭をとってきた経験と実績があり、TESOL そのものも研究活動も精力的に行っている。

今回の FD においては、昨年度に引き続き、SCAS 講師陣を講師に迎え、SCAS で行っている教授法の一端を公開し、英語運用能力の向上に資する、長崎大学の学生にカスタマイズした教授法のあり方について紹介する。特に、本年度は、指導の具体例、特に Speaking と Writing（またプレゼンテーション）に焦点をあて、実際の指導を体験してもらうことで、今後の教養教育英語科目におけるさらなる改善のための契機としたい。

<2 回目>

2 回目の FD においては、上智大学言語教育研究センター長である吉田研作氏を講師に迎え、文部科学省などの外国語教育に関する各種委員会にも携わり、英語が使える日本人の育成に関する研究をこれまで行ってこられ、今後、大学入試の英語検定試験で活用される予定の英語 4 技能試験の一つである TEAP の開発者としても知られる吉田氏を講師として迎える。吉田氏には 4 技能試験を大学入試として受験し入学してきた学生に対して、大学でどのような英語教育を実施することが望ましいか、について講義を行っていただき、長崎大学の今後の英語教育の在り方についての方向性を考える機会としたい。それ以外は、第一回目と同じ内容とする。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）

<1 回目>

13：00～13：10　挨拶（稲田俊明言語教育研究センター長）
13：10～14：40　SCAS Team Presentation
Kerry Pusey, David Cupchack, Jesse Conway
14：40～14：55　休憩
14：55～15：10　平成 29 年度言語教育研究センターの取り組みについて
言語教育研究センター　古村由美子　教授
15：10～15：25　TOEIC-IP の成績分析、3-STEP の復習テストについて
言語教育研究センター　小笠原真司　教授

15：25～15：45　平成 30 年度言語教育研究センターの取り組みについて
言語教育研究センター　小笠原真司　教授
15：45～16：15　質疑／要望・応答

<2 回目>
13：00～13：10　挨拶（稲田俊明言語教育研究センター長）
13：10～14：20　講演～大学入試改革と先にある大学の英語教育の在り方を考える～
上智大学言語教育研究センター長　吉田研作先生
14：20～14：40　質疑・応答
14：40～14：55　休憩
14：55～15：10　平成 29 年度言語教育研究センターの取り組みについて
言語教育研究センター　廣江顕　教授
15：10～15：25　TOEIC-IP の成績分析、3-STEP の復習テストについて
言語教育研究センター　小笠原真司　教授
15：25～15：45　平成 30 年度言語教育研究センターの取り組みについて
言語教育研究センター　小笠原真司　教授
15：45～16：15　質疑／要望・応答

９．参加者：延べ 44 名(2 月 27 日　12 名、3 月 2 日　32 名)
（内訳）

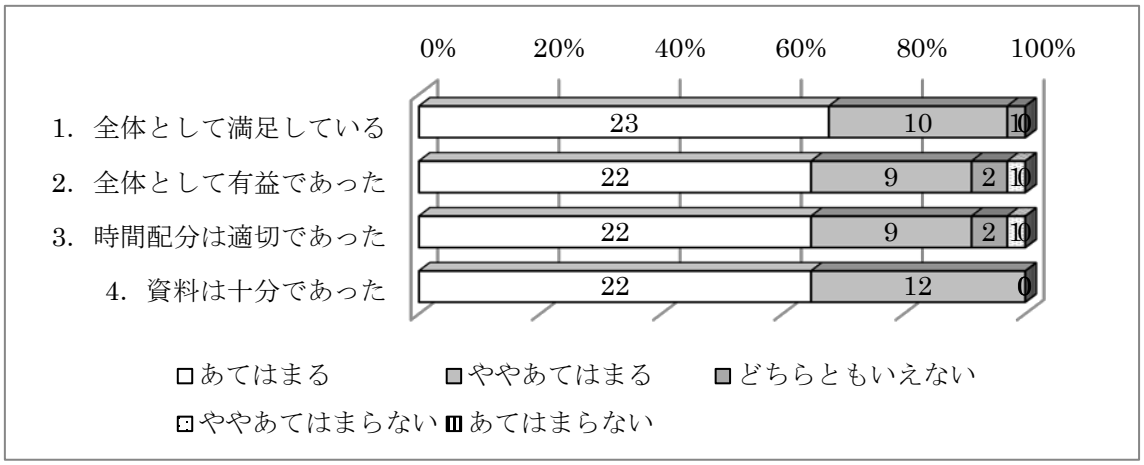
所　　属	人　　数
言語教育研究センター	15
多文化社会学部	1
教育学部	4
経済学部	2
非常勤講師	22
計	44

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

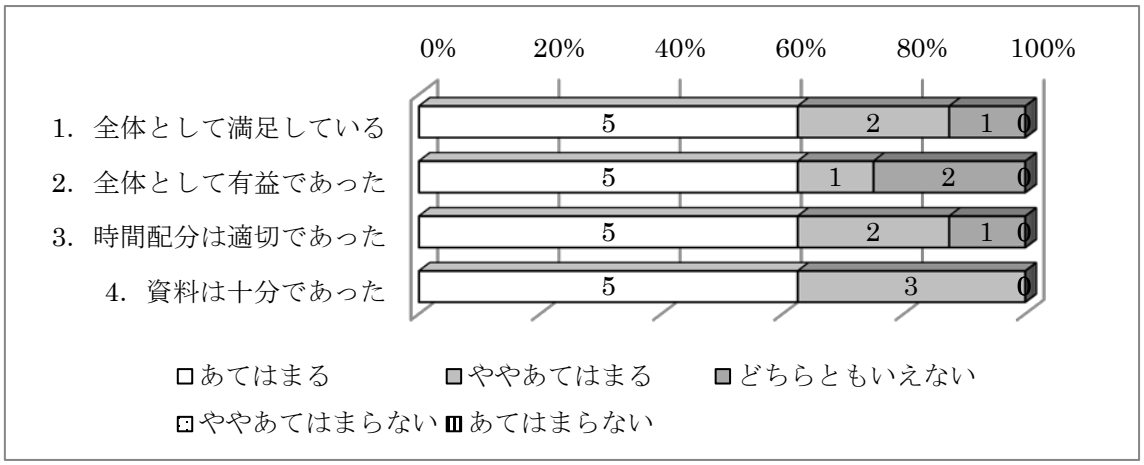
１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）

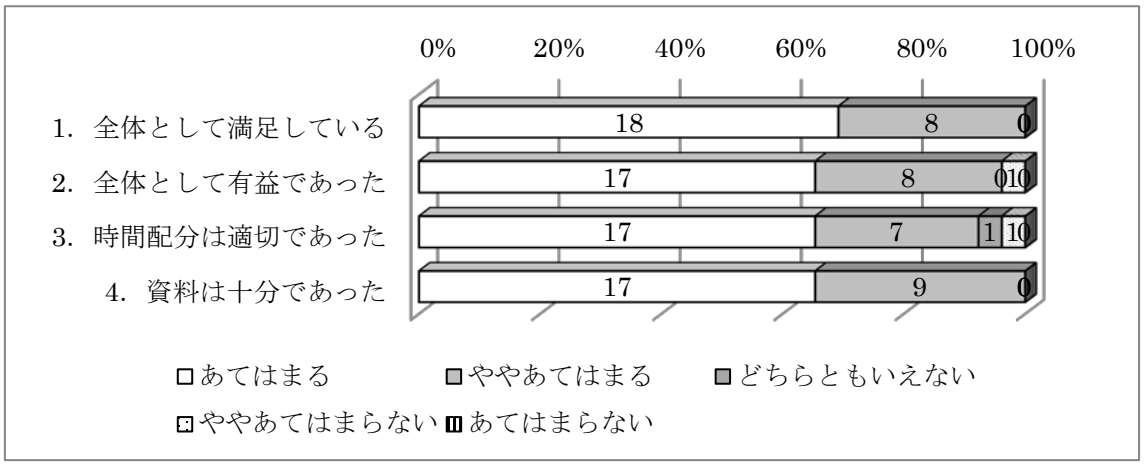
＜全体＞（回答者：34 名）



<1 回目>（回答者：8 名）



<2 回目>（回答者：26 名）



今回のＦＤの運営に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入ください。

<1 回目>

- SCAS の先生方の教授法は全部取り入れたいと思いました。大変参考になりました。ありがとうございました。
- Micro-Presentations, Corrective Feedback, fluency line などとても興味深いテーマでのご講演でした。これから、自分の授業に生かしていきたいです。このような自分にとっては新しい情報を教えていただく機会を設けていただきありがとうございました。
- 両日のプログラムが一様に見たいです。
- 英語ネイティブスピーカーを対象にした FD であれば、全て英語で行ってほしい。英語コミュニケーションクラス対象 FD 等クラス対象でもいいのでは。
- e-Learning のパーセンテージや TOEIC のスコアがどう自分のクラスに生かせるのか分からない。これらは、CLS のスタッフミーティングで行ってはどうか。

<2 回目>

- 学習指導要領は、教員が指導する際にある程度の裁量を与えるために、幅をもたせた表現や表記になっている箇所もあるが、本日の吉田先生の分かり易いご講演の説明のおかげで、バックグラウンドをよく理解できました。
- お世話になりました。
- 吉田先生のお話は大変具体的で参考になりました。ありがとうございました。お話の内容から長大の授業も変えていかなければならないのだと思います。吉田先生のお話のあと実際の長大の授業について、話し合うような時間の方が、後半が有意義になるのではないかと感じました。
- 吉田先生のお話はよかったです。現場レベルの質の向上を目指して頑張りたいが、入試システムが変化することでも小・中・高・大の学生の能力が向上することを願うばかりです。
- 吉田研作先生のご講演の内容はとても有意義で学ぶべきものが多くあり、ご講演を拝聴できたことに感謝いたします。
- 大変素晴らしいご講演をどうもありがとうございました。
- 今回の FD は平日に実施していただき、助かりました。
- 吉田先生の講演会が大変良かったです。普段聞くことができない内容でとても充実した時間でした。今後の授業計画に参考になります。外国語プレゼンテーションのスライドも楽しいものでした。最優秀の学生さんのプレゼンもぜひ聞いてみたくなりました。小笠原先生の学部別スライドわかりやすくて興味深かったです。今日はありがとうございました。

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

平成 30 年度の英語科目 FD は 2 回実施したが、2 月 27 日、3 月 2 日と隣接した時期に開催したため、2 回とも海外出張などのために都合のつかなかった先生方が、非常勤講師 6 名、常勤講師 4 名だった。来年度の FD は 1 回目と 2 回目の日程を離した方が、参加しやすくなるかもしれない。

第 1 回目では SCAS の講師 3 名による実際の指導方法についての説明があった。まず Kerry Pusey 先生による Micro-Presentations（短いプレゼン）を行うために必要なスキル、基本的な構造と指導方法や feedback についての説明があった。次に Jesse Conway 先生より、学生の writing の添削を行う際に便利なソフトについての説明があった。それを使用すると、学生は自分の都合のよい時間を選んで録音された指導を受けることができるため、教師と学生共に利益のある指導方法である。最後に David Cupchack 先生による speaking 指導についての説明では、教師が英語で物語を話し、学生がそれをモデルにして再生する（英語で話す）という指導法が紹介された。楽しく、且つ効果的な方法であった。どの指導法も実行し易く、且つ効果的な指導法であり、参加者の関心が高かったため質疑応答も活発に行われ、又、参加者の満足度も高かった。

第 2 回目は上智大学言語教育研究センター長であり、中教審外国語ワーキンググループ主査として日本の英語教育改革に詳しい吉田研作先生により「大学入試改革と先にある大学の英語教育の在り方を考える」というタイトルにてご講演いただいた。

講演では、小学校、中学校、高等学校における外国語科目の新指導要領の変更点とそれに関連して改革される大学入試について説明があり、今後の大学における英語教育のあり方についての説明があった。4 技能を評価するよう努める、という大きな改革にあたって、上智大学における取組を具体的に説明いただき大変有益な講演であった。大学の教育のみに注意を払うのではなく、長期的で広い観点から英語教育をみつめ、あるべき方向性を示された講演であったため、多くの参加者の満足度が高かったことがアンケート調査でも示された。

1 回目も 2 回目も FD 後半には、今年度実施した「カケハシプロジェクト」（東ティモールへの学生派遣）とプレゼンテーションコンテストのスライドショーを見ていただいた。

その後小笠原教授により、ここ数年の TOEIC IP テストの各学部別平均点の推移（以前より上昇）についての説明があり、本テストの点数を評価に組み入れた効果と 3-step と Power words の学習効果との関連について説明があった。さらに、来年度の E-learning 教材の一部変更について説明があった。

どちらの FD においても内容が非常に有益であり、ためになったという感想が多く寄せられた。その理由としては大学英語教育が直面している課題（指導法、大学入試改革等）について示唆を得ることができたためだと考えられる。

（文責：古村由美子）

１１．実施代表者の連絡先

部　局：言語教育研究センター
職　名：言語教育研究センター長　　氏　名：稲田俊明
e-mail：inadat@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：2379

１２．申請者の連絡先

部　局：言語教育研究センター
職　名：教授　　氏　名：古村由美子
e-mail：furumura@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：2945